

【種別】

“[紅世の徒](#)”、[通称](#)

【初出】

XVIII巻

【解説】

“[紅世の王](#)”。[真名](#)は“鬼道の魁主”（きどうのかいしゅ）。[炎](#)の色は不明。

『昏鴉の御し手』[ヒルデガルド](#)と契約し、真っ赤な宝石をあしらったブローチ型の[神器](#)“[フリズ](#)
[スキャルヴ](#)”に意思を表出させている。

厳かな声で古風な話し方をする男性の“王”。

[大命](#)宣布後のチューリヒ[外界宿](#)総本部での会議にヒルデガルドと共に出席し、不毛な論戦に契約者共々辟易していた。

【由来・元ネタ】

戦争と死を司り、魔術の達人であり、知識の求道者であるという、北欧神話の主神オーディン（Odin）。そのドイツ語名がヴォーダン（Wodan）である。実際に信仰されていた時代の呼び名は、古ノルド語で「激怒する者」を意味するオージン（Óðinn）。

魔術を得る代償に片目を捧げたために隻眼で、帽子を被り長い白髭を蓄えた老人の神。投げれば外れることのない神槍グングニルを持つ。

キリスト教の布教によって零落し、不吉な死神や聖ニコラウスの晩に荒野を駆ける[白馬の乗り手](#)へと姿を変えた。

「鬼道」とは、呪いや妖術を意味し、「魁」は首領やものごとの元祖・さきがけを、「主」は君主を意味する。

真名全体で、「呪術の元祖たる君主」を意味する。おそらく[自在法](#)に長け、契約者にその力を与えるものと思われる。

【コメント】

[ケツアルコアトル](#)、[テスカトリポカ](#)に続く主神級の名前を持つ“王”。きっと強大な“王”なのだろう。

[アニメ第3期](#)で登場した。